

令和5年度

マイスター・ ハイスクール事業 成果発表会



参加費
無料

1/30 火 10:00 ▶ 14:10

オンライン配信 ※zoomによるweb会議

開催趣旨

産業界と専門高校(工業高校、農業高校、水産高校等)が
一体となった次世代の産業人材育成の先進的取組の成果について、発信します。

マイスター・ハイスクール 事業とは

第一線で活躍する企業人・技術者・研究者等の民間人材が学校に入り、産業界と連携した教育活動やカリキュラム開発等を実施することで、産学連携で人材育成を行うモデル事業(令和3年度より文部科学省委託事業として実施)



開催の流れ

10:00 ▶ 10:05 開会あいさつ

10:05 ▶ 10:25 基調講演

10:40 ▶ 11:55 成果発表(前半)

11:55 ▶ 12:55 休憩

12:55 ▶ 14:10 成果発表(後半)

「マイスター・ハイスクール事業で見出したもの」

元・株式会社電盛社常務取締役
現・熊本県立八代工業高等学校 マイスター・ハイスクールCEO

富松 篤典 氏

なぜ産業界が専門高校と連携して人材育成に関わるのか？その意義や役割は？
熊本市のIT関連企業から工業高校のCEO(管理職相当)に赴任し、実際に学校とともに次世代の産業人材育成の取組を進めてきた富松氏よりお話しいただきます



主な対象者

産業教育に係る各都道府県教育委員会等担当者、
産業振興・産業人材育成に係る各都道府県等担当者、
教育関係者、産業界、経済団体、農業協同組合、
漁業協同組合等



登録方法

下記アドレスまたはQRコードに
アクセスし、登録ください

登録
フォーム <https://forms.gle/VMtwaDvGL4VoagBw9>



登録
期限 1/25 木

※参加登録を完了された方には、登録されたメールアドレス宛に後日接続方法等の詳細を送信します。

詳細について

発表資料等は、文部科学省HPに当日までに掲載します。

サイトURL https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/shinkou/shinko/1366335_00001.htm

A

11階
ホール
小



福井県立
坂井高等学校

坂井市 あわら市
福井大学 福井県立大学
コンソーシアム参加企業

テーマ 学科横断型DX研究による次世代産業人材育成体制の構築

本校はテーマを、「地域の課題と地元企業の価値を理解し、持続可能な次世代の地域産業を担う人材の育成」に落とし込み、それに基づいて各項目を定め、具体的な行動計画の下、取り組んできました。また、マイスター・ハイスクール事業を学校改革の契機と位置付け、「学びに向かう姿勢」を生徒、教職員が共通認識として持てるように「見える化」し、重要視しています。

3年間の悩み、試行錯誤を披露しつつ、以下の項目で発表します。

- マイスター・ハイスクール事業のPR動画（課題探究の取り組み）
- 「学びに向かう指標」坂井高校スタンダード～7つの矜持～
- 3年間を通じて一貫した「生徒活動概念図」（樹木図）
- 産業実務家教員と学校設定教科「ふくいの産業」の関連（学科間連携、産業界との連携）
- 企業研修（訪問・出前・グローバル）
- 広報・評価
- 自走のためにCEOと練った「坂井高校コンソーシアム」の設立

B

10階
会議室
1



大分県立
大分東高等学校

大分県教育委員会 株式会社ザイナス
おおいたAIテクノロジーセンター
JAおおいた 永井農家 匹田農家
株式会社大分園芸花市場
FIGグループ株式会社CAOS
IVY専門学校 ファブラボ大分 NVIDIA

テーマ 現場のニーズに即したテクノロジーの活用と人材育成

本校では、スマート農業を創出できる人材育成のため、AI、IoT、データ分析等のテクノロジーを実践的に学ぶ授業を実施しています。テクノロジーを応用して、大分県産いちごベリーーツとシクラメンをテーマに、地元の農家、市場など、現場の声を第一とした課題研究にも取り組んでいます。

- 産業実務家教員を主としたテクノロジーを学ぶ授業を3年間で計75コマ実施。
- 2年目以降は、学校教職員による授業の内製化を計26コマ実施。
- 地元農家が抱える課題から「AI画像識別を用いたいちごの等級判別キット」を発想。民間企業の技術支援を受け、地元の専門学校生と共同開発と実用化に取り組んでいる。1/21アグリテック甲子園2023で発表。来年12月パリで開催されるOECD（経済協力開発機構）サミットでの発表準備中。
- 地元の市場や花屋を対象にアンケート調査を実施し、AHP分析を用いて、大分独自のシクラメン高値評価基準を作成。圃場のセンサーで取得した環境データを利用して高値のつくシクラメンの効果的な育成を研究中。



C

10階
会議室
3&4



新潟県立
海洋高等学校

株式会社能水商店
糸魚川市



テーマ 未来を担う海洋・水産プロフェッショナル人材育成システムの構築

ICT活用やDXが進展する社会において、地域資源に付加価値をつけて水産業及び海洋関連産業の振興に寄与する、生徒の資質・能力を育むカリキュラム開発。

- 産業実務家教員2名それぞれ年間22日勤務及びマイスター・ハイスクールCEOの週3日勤務による産業界との連携強化
- 学校設定科目「地域探究」(2単位)の創設と実践
- 販売実習等の拠点となるアンテナショップを地元の道の駅に設置
- 地域課題を海洋・水産の見方・考え方で解決する探究学習の展開
- 生徒の資質・能力を評価するアセスメントテスト「学びみらいPASS」による事業評価

D

10階
研修室
1



福島県立
小高産業技術高等学校

福島県教育委員会
福島県商工労働部
南相馬ロボット産業協議会



テーマ ふくしまの未来を創るテクノロジスト育成事業

東日本大震災・東京電力福島第一原子力発電所事故からの地域復興・創生を担う人材育成のために、各科の特色を活かした先進的な学習プログラムづくりに取り組んでいる。最終年度を迎え、各分野での取組も一層発展的な内容になっている中、達成できた目標や課題を分析し、今後の方向性を見定め、本事業で得た知見を基に次年度以降の教育課程の改善と校内組織の再編につなげていく。



E

10階
研修室
2



熊本県立
八代工業高等学校

熊本県教育委員会
(一社)熊本県情報サービス産業協会
熊本県商工労働部



テーマ 優れた人材や技術の「X(融合)」を追究し、DX時代の夢をつなぐ創造的エンジニアの育成 ～くまももからはじまる産業人材育成エコシステム～

令和5年度は、「創造的思考力の育成」を年次テーマに、新たな学びを見いだす力、コトづくりにつながる価値創造、発想力・デザイン力の育成を目指し、産学官が一体となった産業人材育成に取り組んできました。

- 年間約300時間の産業実務家教員による授業や実習及び出前授業
- 7月と11月の年2回の企業実習(MHS型インターンシップ)
- マイスターの日の設定とその活用(事前・事後指導、教授活動)
- 産業界と連携したカリキュラムの内容及び指導方法の検討など、その成果と今後に向けた取り組みについて発表します。

A

11階
ホール
小北海道
静内農業高等学校新ひだか町 しずない農業協同組合
北海道経済連合会 国分北海道株式会社
北海道農政部 北海道立総合研究機構
日本中央競馬会 日本軽種馬協会 等

テーマ 地域発次世代イノベーター人材の育成 ~持続可能な日高農業の創り手~

本校が所在する日高地方は日本の食糧供給地域である北海道中央南西部に位置し、日本最大の馬産地であると同時に施設園芸の盛んな地域です。地域産業の持続的発展をけん引できる人材の確保が求められる中で、本校は、農業を支える人材を総合的に育成している高校として、食品、園芸、馬事と学科やコースの編成に合わせて事業を進めてまいりました。今回の発表では、この3年間、産業界と連携して取り組んできた中から代表的な取組や成果、課題、今後の取組等について発表いたします。



B

10階
会議室
1山梨県立
農林高等学校甲斐市 甲斐市商工会
岩崎醸造株式会社
山梨県教育委員会

テーマ 山梨ワイン発展のための協働と若手技術者の育成

本校では、山梨県の地場産業であるワインを学習教材とした職業人材の育成に取り組んでいます。地域資源を活用するために必要となる「6次産業化の視点」を育てるべく行政や大学、地元企業など多くの関係機関の協力のもと学習環境を整備しました。以下が具体的な取り組みとなります。

- マイスター・ハイスクールCEOの計画による校外学習など特別行事実施
- 産業実務家教員を主担当としたワイン関連科目の開講(週10時間)
- ワインをテーマにしたプロジェクト学習の指導(オリジナルワインの製造・販売)
- 学校設定科目「ワイン学」(R6開講)や学校独自認定制度の準備
- ルーブリック評価による職業観の育成

この3年間を経て、ワインは生徒の学びと成長のために欠かすことのできない大切な教材になりました。充実の活動内容について発表します。

C

10階
会議室
3&4福井県立
若狭高等学校ふくい水産振興センター
小浜海産物株式会社 福井缶詰株式会社
株式会社 マツ勘 MATSUKAN.CO.,LTD.
小浜市 福井県立大学

テーマ 若狭地域のWell-beingを実現するために地域水産業の成長産業化に貢献できる人材育成のための水産海洋教育カリキュラム開発

本校では、地域のWell-beingを実現するために水産業の成長産業化に貢献できる人材の育成に取り組んでいます。これまで、産業界、行政、大学との連携のもと、

- CEO、産業実務家教員による研究や進路指導、年間約500時間
- 企業と共同研究した新商品の開発
- 学校設定科目「海洋資源探究」を創設し、対話による「地元学」

などの取組みを行い、地域で生徒を育てるという意識が生まれてきました。3年間の実績と来年度からの取組みについて発表します。

D
10階
研修室
1



滋賀県立
彦根工業高等学校

彦根商工会議所 彦根市
滋賀大学 滋賀県立大学
滋賀県教育委員会

テーマ 変化への挑戦 (Challenge for Change)

本校は令和3年度より、管理機関及び各関係機関と連携し、企業や大学の先端技術に触れたり伝統的な技術を習得したりすることで地域産業を支える人材を育成するとともに、地域の活性化に貢献することを目指しています。本年度から企業や大学の施設で実習を行うデュアルシステムを実施するなど、地域産業界と連携した教育システムの構築を進めています。

発表では、

- 近江マイスター (1年生の学校設定科目)
- ブラッシュアップ (2年生の学校設定科目)
- プロGRESS (3年生の学校設定科目)
- カンパニー制
- 非認知能力のデータ化

について報告します。

E
10階
研修室
2



宮崎県立
延岡工業高等学校

宮崎県工業会 延岡市
宮崎県教育委員会
INOBECH協同組合

テーマ 長期的な人材育成について

本校では「長期的な人材育成」をテーマに生徒と地域社会を結びつける取組を行っています。これまで、宮崎県工業会、INOBECH協同組合、延岡市、宮崎県教育委員会の連携のもと

- 産業実務家教員による週6時間の3年実習及び課題研究の指導
- 2年生3名による年間を通したマイスター・インターンシップの実施
- CEO助言のもと実施したオープンバッジの取得(2年目、3年目)
- ICTを活用したものづくりを推進するための実習カリキュラムの改訂
- 地域に開放したものづくり教室の実施

などの取組を行ったことで、生徒の進路意識の変化や企業理解、学校と企業との連携の必要性を感じることができました。さまざまな成果を検証するにはまだまだ時間がかかるかと思いますが、これまでとこれからについて発表したいと思います。



A

11階
ホール
小大分県立
久住高原農業高等学校株式会社ピースカンパニー
株式会社オートボックスセブン

テーマ デザイン思考で切り拓く農業人財のミライ

本校では、民間企業が経営戦略などを描く際に活用する思考方法である「デザイン思考」の学習を軸としながら、農業や畜産のプロを目指す学生に対して、「何かを“作る前”から“売った後”までを考えた、お客様(利用者)目線でのスマート農業実践」に関する授業を展開しております。

この3年間においては、毎月6時間の産業実務家教員による基礎授業および、農業、畜産、農産加工業のプロをお呼びしての特別授業を実施しており、「基礎知識の習得とその活用」を1サイクルとしたアクティブラーニングの実践および学校教員への知識伝授を実現しております。

B

10階
会議室
1広島県立
庄原実業高等学校庄原商工会議所
庄原市テーマ 地域の未来社会実装型農業をデザインするアグリビジネスプレイヤーの創出
～ Think Globally, Act from Shobara ～

本校では、令和3年度より、「庄原ひとづくりコンソーシアム」を設立し、持続可能な社会・地域の創造を目指す産学官一体型の教育課程の編成・実施に取り組んできました。

- 農業の専門科目と「総合的な探究の時間」において、未来思考型PBLを実施
- 未来思考型PBLでは「10年後の庄原地域を創るためにはどうすればよいか」を本質的な問いとして、地域の教育リソースと協働しながら3年間の学習を実践
- 産業実務家教員(週7コマ)による先端的な農業の学習を実践

これらの取組を行い、生徒の地域理解が深まり、未来を考える力や地域愛を醸成することができました。3年間の生徒の学習を振り返り、学校と地域及び産業界が共に創造的な人材の育成を実践する手段を提案します。

C

10階
会議室
3&4北海道
厚岸翔洋高等学校北海道教育委員会
厚岸町
厚岸漁業協同組合

テーマ 地域の未来を創るマリン・イノベーターの育成

本校では、未来を創るマリン・イノベーターの育成をテーマとして、IT技術を活用した「スマート水産業」に関わる実践を通して、地域の資源管理型漁業の推進に寄与するとともに、地域産業の持続的な成長を牽引する最先端の職業人の育成を目指して取り組んでいます。

これまで、町や漁協をはじめ、企業等との連携のもと、

- 沿岸の水温・流速・有害プランクトンをモニタリングできる機器を設置し、海の状況を見える化して、資源管理型漁業実習の充実資する取組
- 空中ドローンや水中ドローンを活用し、漁場管理のスマート化に資する取組
- 地元の水産物を生かしたレシピを開発し、食材の高付加価値化に資する取組
- 全国豊かな海づくり大会に参加し、映像やチラシによって普及に資する取組

などを実施してきました。次年度の方向性も踏まえつつ、発表します。

D

10階
研修室
1埼玉県立
大宮工業高等学校埼玉県
埼玉県経営者協会
埼玉県教育委員会

テーマ 新たな社会(Society5.0×DX時代)を支える次世代マイスターの育成

本校では、「産業界と専門高校が一体となった」取組による「新たな社会を支える」ことができる生徒の育成に取り組んでいます。今日まで、埼玉県経営者協会や県の機関等と連携して、様々な取組みにより「生徒の生きていくための学び」、職業観やキャリア意識を育成してまいりました。具体的には、

- 共通教科と専門教科を結ぶ「つなぐことで思考を深める」教科等横断型授業
- 専門教科を中心とした「産業界との協働による最新技術の習得」
- 企業30社参加の進路フェア、企業見学会など「偶発的・多様な出会いの創出」
- 県の環境科学国際センター研究者や熊谷保健所との協働授業などです。

また、事業期間半分の経過を機に中間の成果・反省を他校に提供すべく、マイスター・ハイスクール事業シンポジウムを開催しました。

今後、本事業の自走、並びに他校への普及に向けて計画を進めてまいります。

発表では上記の他、事業期間における生徒の変化などをお伝えしたいと思います。

E

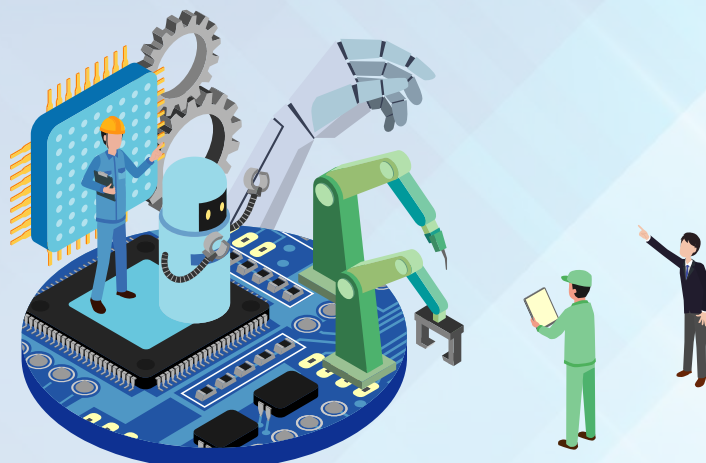
10階
研修室
2静岡県立
浜松城北工業高等学校ヤマハ発動機株式会社
浜松市
静岡県教育委員会

テーマ スパイラルアップする組織力でロボティクス人財の育成 -2年目の歩み

本校は、ロボティクス人財の育成という目標を管理機関と共有し、毎週一校内員会と毎月一情報交換会は大きな組織力を生み出し以下の成果を上げた。

- 学校設定科目
「ロボティクス実習」「ロボティクス概論」
- 各科連携の課題研究—ロボットテーマ
- MH事業版—海外インターンシップ
- 4学科連携のものづくり
- MH成果発表会—副市長、自治体、地元企業が来賓として参加

などの取組を報告すると共に4年目の自走における課題についても発表します。



A

11階
ホール
小



岡山県立
真庭高等学校

銘建工業株式会社
真庭市



テーマ 事業成果報告2023

本校では、「自然と共生し、持続可能な地域と地域産業を担う人材の育成」をテーマに、地域の自然や産業を学ぶ中で、自らの生き方と地域や産業の未来を重ねて考えチャレンジする人材の育成に取り組んでいます。事業推進が困難な状況からの3年間の紆余曲折を振り返りつつ、地域密着型のカリキュラムを完成。具体的な取組を紹介しながら、成果と課題を発表します。

- バイオマスツアーのガイド養成
- 耕作放棄地の景観維持や植栽交流
- 真庭ビジネス探究ツアー
- 伝統工芸の継承と小学校への出前講座
- 先進農家訪問

など

D

10階
研修室
1



学校法人一川学園
清和学園高等学校

東日本電信電話株式会社
タカインフォテクノ
越生町



テーマ 変化への挑戦

本校では、地元越生町の地域課題解決を通じた生徒の能力、スキル開発によるSX人材の育成に挑戦しています。

具体的な手法としてプロジェクトサイクルを掲げて、これまでNTT東日本やタカインフォテクノ、山手調理製菓専門学校、越生町との連携しながら各種授業、プロジェクトを実施してきました。

今年度は、調理科のプロジェクトサイクルを策定して「清和チョコレートプロジェクト」「クリスマスコンテスト」に着手、他にSDGsカードゲームやICT基礎等の授業を通じて、生徒の地域課題を考える力、協働スキル、情報発信についての成果が出始めたため、これらについて発表します。

E

10階
研修室
2



仙台市立
仙台工業高等学校

宮城県情報サービス産業協会
S:CREW CO-WORKS 仙台建設業協会
宮城県電気工事組合 仙台市
東北大学 東北工業大学 等



テーマ 「働きたい街 SENDAI」を目指して ~「地学地就」を目的とした(仮称)IT科と(仮称)IT専攻科の創設と「産学官」連携によるデジタル技術を活用できるエンジニアの育成

本校では、新たに情報関連学科及び情報関連専攻科を創設するとともに、既存学科においても最先端のデジタル技術等を習得し、実務に直結した様々な能力を身に付け、最終的には仙台市を始めとする地元宮城県で活躍できる人材を育成することを目指します。

- 情報関連学科創設に係る教育課程の編成、産業実務家教員の担当教科について、CEO・産業実務家教員及び校内関係者で年間50時間程度で協議。
- 産業実務家教員による年間32時間のプログラミングの指導。(既存4学科)
- 1級建築士の指導によるコンペ講習と本校生の建築コンペの報告会(建築科)
- 既存学科毎での最先端技術等の企業・大学見学 6回

などの取組を行いました。

実施初年度において令和7年度より情報系学科の創設が決定したプロセスと、今年度、既存4学科で取り組んだ事業を中心に発表します。